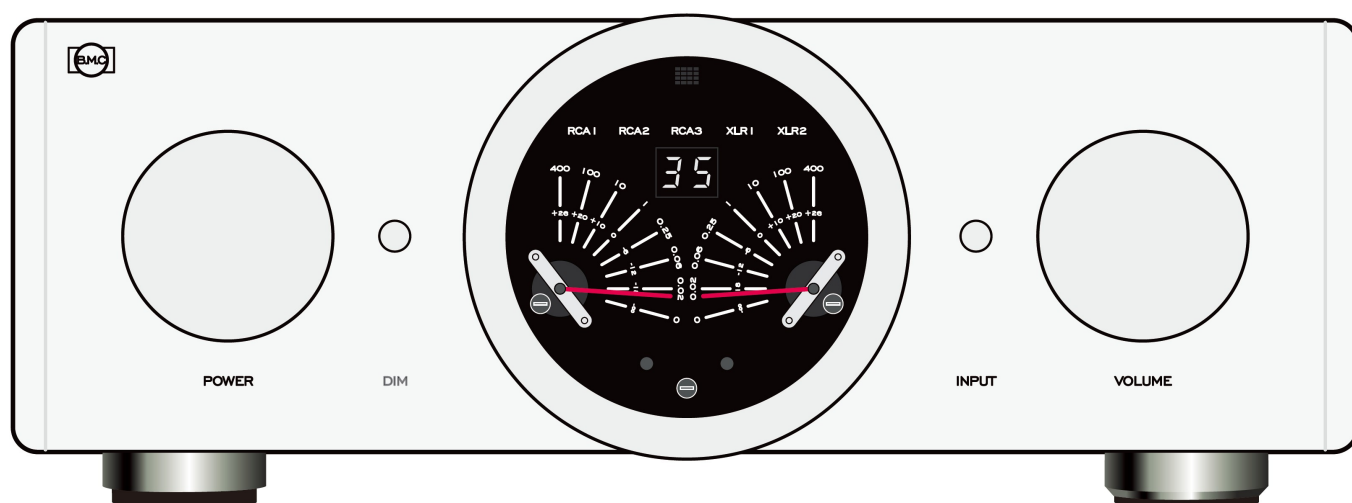
CS2

Stereo Amplifier

Owner's Manual

[取扱説明書]

目次

はじめに

このたびは、BMC AMP CS2 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
BMC AMP CS2 は、BMC 独自の LEF という斬新な回路技術と、DIGM という信号劣化を伴わない:ゲイン(ボリューム)回路によって、極めて短経路・高 S/N で元信号に忠実な増幅を行ない、リアリティーの高い音の再現性を達成するインテグレーテッド・アンプです。
入力には、2 系統の XLR バランス入力と 3 系統の RCA シングルエンド入力を備えています。
2 つの XLR バランス入力は BMC 独自の CI(電流駆動)にも対応し、CI 出力を持つ BMC の機器(DAC1,DAC1Pre, BDCD1.1,MCCI など)を接続することによって、最短経路での電流結合が可能となり、より高い再生品位が得られます。

(DAC1,DAC1Pre との接続では CS2 との間で DIGM トスリンク接続によって自動的に CI モードとなり、DAC1 中央の回転ノブが CS2 のゲインをコントロールするボリュームコントローラーとして機能します。また、BDCD1.1,MCCI との接続では、接続した XLR 入力を INPUT ボタンで選ぶ際に、ボタンを 5 秒間長押しすると、トスリンク接続なしでその XLR 入力は CI モードに設定されます。)

そうした本機の優れた機能・性能を最大限発揮させるため、ご使用の前に、
本説明書を一通りお読みの上、設置や操作の詳細について充分にご理解いただき、正しくご使用の上、
末長くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

[梱包内容]

●CS2 本体 ●AC 電源コード ●リモコン（単三電池 2 個）●トルクス・レンチ(サイズ 10) ●取説

ご使用上の諸注意

本機の性能を充分に引き出し、また安全にご使用いただくため、以下の点にご注意ください。

■火災や感電等の危険を避けるため、湿気の多い場所や水のかかる場所で本機を使用しないでください。

■火災や感電等の危険を避けるため、本機のカバーを取り外さないでください。内部にはお客様に調整していただく部品はありません。専門の技術者におまかせください。

■本機を、水のかかりやすい場所、湿気の多い場所で使用しないでください。また水がかかった時は、すぐに電源コードをコンセントから抜いてください。

■本機の内部にヘアピン等の特に金属の異物が入りこまないよう、充分にご注意ください。

■本機を、暖炉やストーブなど熱源の近く、あるいは熱を発生する機器の付近で使用しないでください。

■本機を、直射日光の当る場所、あるいは低温になる場所で使用しないでください。

■本機は指定された電源以外では使用しないでください。

■本機のお手入れには柔らかい布をご使用ください。水やダストスプレー、溶剤、研磨剤、クリーニング剤等を直接シャーシに付けることは避けてください。

■感電のおそれがありますので、スピーカー接続端子の金属部分（接点）や、接続したスピーカー・ケーブルの端子には手を触れないようにしてください。音が出ている時は、高い電圧や強い電流が流れますので、特にお子様などが触れたりしないよう、充分にご注意ください。

[設置について]

●オーバーヒート防止のため、本機の両側、ならびに上方には最低でも 7.5cm 程度の空きを設けてください。

●本機の底面には内部の熱を排出する低騒音ファンが装備されていますので、底面の通風を妨げないようご注意ください。

●本機をキャビネット内に設置する場合には、通気を確保する何らかの方法を講じる必要があります。

●本機と他機を積み重ねないでください。

[接続の前に]

■接続は、本機および接続する機器の電源コードをすべて抜いてから始めてください。

付属の電源コードの取扱いについて

本機に付属している電源コードは、本機専用のものです。他の機器にはご使用になれません。

フロントパネル各部の機能

① POWER(電源スイッチ)
ノブを右に回すとパワーオン、左に回すとパワーオフとなります。

② DIM
ウィンドウの照度を明/暗 2 段階に切り替えます。

③ DIGM レベル表示
設定されたボリュームレベルに応じて中央の二桁の数字が表示されます。(00-66 の範囲で 1dB ステップで表示)

※バランス入力時: 表示 39 でゲイン 0dB に相当(。※シングルエンド入力時: 表示 33 でゲイン 0dB に相当(。

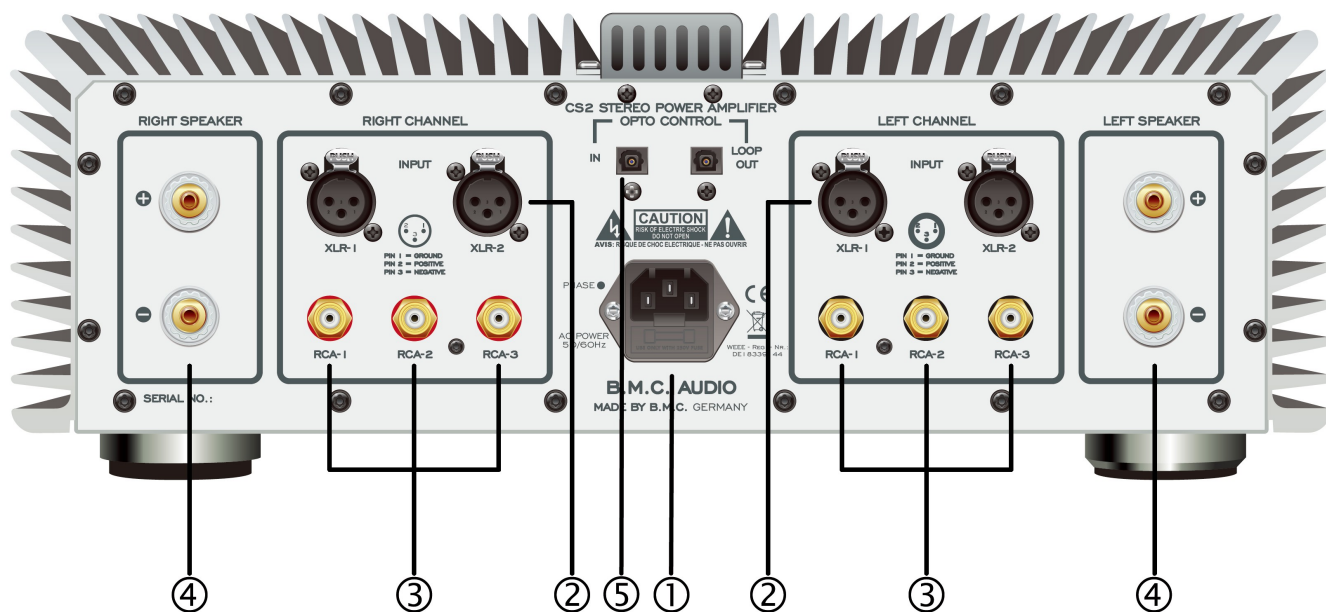
④ パワーメーター
4Ω負荷時での出力をワット表示します。

dB 表示は 1W = 0dB

⑤ INPUT / (入力名表示)
INPUT ボタンを押して入力を切り替えます。(中央の表示ウィンドウに、選択された RCA1,2,3, XLR1,2 の各入力名が表示されます)

⑥ VOLUME (ボリューム調整)
回してボリュームレベルを調整します。(設定したレベルは③DIGM レベル表示部に 00-66 の範囲で 1dB ステップで表されます)

※BMC DAC1(DAC1Pre)の DIGM 端子と CS2 の OPTO CONTROL IN 端子がトスリンク光ケーブルで接続された CI モード時には、このノブは無効となり、ボリューム・コントロールは、DAC1(DAC1Pre) のボリューム・ノブで行ないます。

リアパネル各部の機能.

[電源]

① 電源インレット

付属の電源コードを、電源容量の十分ある100VのAC壁コンセントに直接接続します。

※延長コードのご使用は避けてください。また、本機は特に AC ライン・コンディショナーやフィルターを必要としませんが、ご使用になる場合は、本機の最大消費電力をカバーする容量が必要です。

[アナログ入力] 右チャンネル/左チャンネル

② XLR1 , XLR2

2 系統のバランス XLR 入力。

※XLR 入力は CI(電流駆動モードに対応可能です。(8 ページ「:CS2 の動作モードについて」の「3. BMC 独自の CI(電流)モードアンプとして」を参照)

③ RCA1 , RCA2 , RCA3

3 系統のシングルエンド RCA 入力。

[スピーカー出力] 右チャンネル/左チャンネル

④ SPEAKER

スピーカーケーブルを接続。(適応スピーカー: 4～8Ω)

[DIGM トスリンク接続]

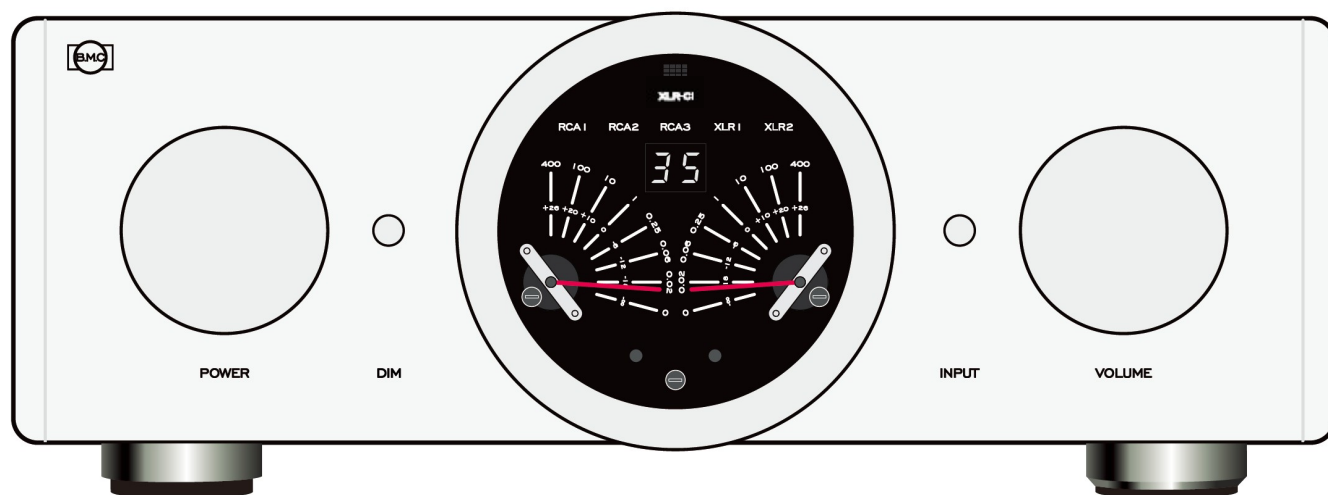
⑤ OPTO CONTROL IN / LOOP OUT

OPTO CONTROL IN : DAC1、DAC1Pre の DIGM 端子とトスリンク光ケーブルで接続することで、本機のゲインを DAC1 、DAC1Pre からコントロールすることができます。

※この機能を使うには、DAC1 の固定出力(Fixed Level Analog Output)、または、内部で CI モードに設定した DAC1Pre の PreAmp XLR Output を本機の XLR1 入力に接続し、入力セレクターを XLR1 に設定します。

OPTO CONTROL Loop OUT

本機と別の CS2 を同時に DIGM ゲインコントロールしたいときに、トスリンク光ケーブルを数珠繋ぎする端子です。

操作のしかた

1. POWER スイッチを右に回し電源を入れる

2. 入力を選択する（INPUT ボタン）

3. ボリューム調整する（VOLUME ノブ）
   （ボリュームレベルは DIGM レベル表示に 00–66 の範囲で 1dB ステップで表示）

※BMC DAC1(DAC1Pre)の DIGM 端子と CS2 の OPTO CONTROL IN 端子がトスリンク光ケーブルで接続された CI モード時には、このノブは無効となり、ボリューム・コントロールは、DAC1(DAC1Pre) のボリューム・ノブで行ないます。

表示ウィンドウ

・ウィンドウ上部には、INPUT ボタンで選択した入力名が表示されます。
・電源を入れると 10⇒00 のカウントダウン後、初期設定のボリュームレベル(10)を表示します。
・左右のメーターは 4Ω 負荷時での出力をワットで示します。(dB 表示は 1W = 0dB)

通常モード時の入力表示

CI(電流)モード時の入力表示

CS2 の動作モードについて

CS2 は、接続と設定、組み合わせ機器によって三通りのモードで動作させることができます。

1. インテグレーテッド・アンプとして （対象入力=全入力）

特に何もしなければすべての入力は普通に、所謂インテグレーテッド・アンプとして使用できます。
ボリュームコントロールは CS2 本体のボリューム・ノブまたはリモコンの AMP ボリューム・ボタンで行ないます。

2. パワーアンプとして （対象入力=全入力）

CS2 のボリュームコントロール回路は BMC 独自の DIGM(ディスクリート・インテリジェント・ゲイン・マネージメント)というアンプの増幅度(ゲイン)を変化させることで出力をコントロールするユニークな構成です。
(一般的なプリメインアンプ方式では入力レベルをアッテネーターで絞り、固定ゲインによるプリアンプ部/パワーアンプ部に送り込み目的の出力パワーを得ますが、DIGM 方式は入力レベルにはそのまま手を付けず直接ハイゲインのパワーアンプ部に送り込みそのゲインを変えることで目的の出力を得ます。そのため S/N と歪率の優れた出力が得られます。)
従って、DIGM ゲイン(ボリューム)を通常のパワーアンプと同等のレベルとなるように表示 66(MAX)にゲインセットしてやればどの入力でもパワーアンプとして機能します。※
ボリュームコントロールは接続したプリアンプ側で行ないます。

※ゲインが最大となっていますのでプリアンプのボリューム設定にはご注意ください。またこのパワーアンプ・モードでは、ボリューム調整の無い機器(DAC など)は接続しないでください。最大レベルで出力しますのでスピーカーを破損させる恐れがあります。)

※このボリューム設定は電源を切ると(安全のため)初期状態にリセットされます。再度パワーアンプモードにするには、上記のゲイン設定をやり直してください。

3. BMC 独自の CI(電流)モードアンプとして

CS2 の XLR 入力は BMC 独自の CI(電流)駆動モードに対応させることができます。電流出力を持つ BMC ソース機器(MCCI、BDCD1.1、DAC1)とのダイレクト接続で電流伝送結合し、BMC のアドバンテージを最大に生かすことが可能です。
CI モードにするには、二通りの方法があります。

a) (対象入力=XLR1/XLR2)
MCCI , BDCD1.1 との接続では、まずバランス・アナログ出力を CS2 の XLR 端子(1 または 2)に接続します。次に、INPUT ボタンで入力切替を XLR(1 または 2)に設定した後、もう一度そのボタンを 5 秒間長押しすると、ディスプレーに”XLR CI”が点灯し選択した XLR 端子が CI モードに設定されます。
この場合、ボリューム・コントロールは、CS2 本体のボリューム・ノブまたはリモコンの AMP ボリューム・ボタンで行ないます。

※注意: XLR1/XLR2 入力ボタンの長押しで CI モードに設定したときは、その端子に一般の(電圧モードの)ソース機器(CD プレーヤーなど)やプリアンプは接続しないでください。ミスマッチにより、音質が損なわれます。また、場合によってはそれらの機器が故障することもあります。そうした場合は、保証対象外となりますのでご注意ください。

※設定した CI モードを元に戻すには、XLR CI 表示が消えるまでもう一度ボタンを長押ししてください。

b) (対象入力=XLR1 のみ)
BMC DAC1(DAC1Pre)の DIGM 端子と CS2 の OPTO CONTROL IN 端子をトスリンク光ケーブルで接続します。DAC1(DAC1Pre)のバランス・アナログ出力を CS2 の XLR1 端子に接続し入力を XLR1 にすると、ディスプレーに”XLR CI”が点灯し CI モードに設定されます。
この場合、ボリューム・コントロールは、DAC1(DAC1Pre) のボリューム・ノブで行ないます。(つまり、CS2 のボリューム機能を光ケーブルによって DAC1(DAC1Pre) 側から遠隔操作します。尚、リモコンの DAC VOL ボタンでも操作可能です)

リモコン(付属)での操作

AMP セクション(上部)の各ボタンで操作します。

IN ▲ ▼ : 入力切替

VOL+ : ボリューム・アップ
VOL− : ボリューム・ダウン

MUTE : ミュート
※ミュート解除はもう一度押します。
（ボリューム操作をしても解除されません。）

※DAC セクション(下部)の VOL+ / VOL−と MUTE :ボタンは BMC DAC1(DAC1Pre)の DIGM 端子と CS2 の OPTO CONTROL IN 端子がトスリンク光ケーブルで接続された CI モード時にのみ機能して、DAC1 経由で CS2 のボリューム・コントロールを遠隔操作します。

[リモート・コントローラーの電池装着/交換]

本機のリモート・コントローラーは、1.5V 単三電池 2 本を使用します。
電池を、以下の手順で装着してください。

●背面のバッテリーカバーを外します。(下部電池マークのカバーを付属のサイズ 10 トルクス・レンチを使って 4 本のネジを外す)
●バッテリー装着部の表示にしたがって、極性をまちがえないように電池を装着します。
●背面のカバーを元の通り取り付けます。

※ご注意
＊リモートコントローラーによる操作ができなくなったら、上記の要領で電池を交換してください。
＊長期間ご使用にならないときは、電池の液漏れを防止するため、電池を抜いてください。

安全に関するご注意 （リモコン用の電池の取扱について）

警告

下記のことは必ず守ってください。電池の使い方を間違えると電池が発熱、液もれや破裂したり、機器の故障やけがなどの原因となります。

●電池は乳幼児の手の届かない所に置いてください。
●電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師と相談してください。
●分解、加熱、火に入れるなどしないでください。
●＋－を逆に入れないでください。
●＋－をショートさせたり、ネックレスなど金属製のものと一緒に携帯・保管しないでください。
●この電池は充電式ではないので、充電すると液漏れ、破損のおそれがあります。
●電池に直接はんだ付けしないでください。
●電池そのものや電池を入れたリモコンの置き場所は直射日光・高温・高湿の場所を避けてください。電池には化学物質が入っているので、暑さや湿気は禁物です。特に高温・高湿、直射日光のあたる場所での保管はさけましょう。寿命が短くなるばかりか、破裂・液漏れをおこす恐れがあります。
●電池のもれ液が漏れて目に入ったり、皮膚や衣服に付着したときは、失明やけがなどのおそれがあるのできれいな水で洗い流し、すぐに医師の治療を受けてください。
●長期間ご使用にならない場合はリモコンから電池を外してください。また、使い切った電池は、すぐに機器から取りだしてください。
●電池の使用推奨期限：リモコンの働きが悪くなったりした場合や、また、通常は半年から一年を目安として交換されるようお勧めします。

トラブルシューティング

●音が出ない、

⇒ 各接続をチェックしてください。

⇒ 入力設定とボリューム設定を確認してください。

●エラー・メッセージが出て動作しない

⇒ 一旦電源を切ってください。その後一分ほど待ち再度電源を入れてください。
それでも改善しない場合は、販売店にご連絡ください。

●リモコンが効かない

⇒ 本機正面の表示ウィンドウ内にリモコン受光部がありますので、近くから試してみてください。
リモコンが離れて効かないときは、電池交換をしてみてください。

主な仕様

●出力パワー ：2x200W/8Ω、2x360W/4Ω
●周波数レスポンス 20Hz – 20kHz,1W : -0.08dB
●周波数帯域幅 1W/-3dB ：2Hz – 180kHz
●S/N (DIGM レベル 57、対最大パワー) : 110dB
S/N (DIGM レベル 40、対最大パワー) : 125dB
S/N (DIGM レベル 40、対 1W パワー) : 103dB
●THD+N @1W,1kHz : 0.01%
THD+N @50mW – 50W,1kHz : 0.02%以下
THD+N 0.1%以下 ：0.3mW – 150W
●ダンピング・ファクター (8Ω,10W) : 250
●入力端子: 2x バランス XLR、3x シングルエンド RCA
●入力インピーダンス :バランス 100KΩ, シングルエンド 50kΩ
●XLR-CI モード入力インピーダンス 3KΩ
●入力感度 ：1.5V/XLR、750mV/RCA
●XLR 入力極性:pin1=G , pin2=HOT , pin3=COLD
●DIGM ゲイン(ボリューム)設定 ：00 – 66 (1dB ステップ)
●スピーカー端子 ：L/R 1 系統、金メッキバインディングポスト
●電源: 100VAC 50/60Hz
●消費電力 ：110W – 800W
●外形寸法 ：435W x 138H x 405D (mm)
外形寸法(突起部含む) : 435W x 150H x 450D (mm)
●重量 ：40 kg

※仕様は予告なく変更される場合があります。

保証

本機の保証はアクシス株式会社が行ないます。
同梱の保証登録カードに必要事項をご記入の上、ご購入後 120 日以内に下記宛にご返送ください。
折り返し、保証書をお送りいたします。
無償保証期間は 2 年間です。
保証についての詳細は、保証書をご覧ください。

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-34-27
アクシス株式会社
TEL 03-5410-0071 / FAX 03-5410-0622